

2024 年 8 月 6 日作成 Ver.4.0

《情報公開文書》

長崎大学病院における呼吸器外科と消化器外科との共同手術を必要とした
食道穿孔症例の検討

研究の概要

【背景】

食道穿孔は、食道壁に全層性に断裂や損傷が生じた状態で、我が国での手術例が年間約 220 件の比較的稀な疾患群です。特発性、医源性、食道異物や外傷による損傷、食道潰瘍や食道癌などを原因として発症する疾患で、発症早期に適切な治療がなされなければ重篤化しうるとされていて、治療に難渋することもあり、致死率が 20-30%とする報告もあります。手術もしくは保存的加療などが症例に応じて選択されますが、症例数が少ないため、判断が難しいこともあります。このようなときは特に、呼吸器外科、消化器外科、消化器内科、呼吸器内科、集中治療科などが協力して診療にあたる必要があるとされています。

【目的】

今回の研究では、長崎大学病院での呼吸器外科と消化器外科による共同手術を要した食道穿孔手術成績を明らかにし、さらには改善点があるとすればどのような部分なのかを明確にすることを目的としています。これにより、決して多いとは言えない食道穿孔を来した症例群に、将来的により良い医療を提供できると思われます。さらに、当院は地方中核病院として、重篤な疾患を受け入れる責務があり、このような比較的稀であるが重篤な経過をたどりうる疾患に注目、調査することは、地域医療に貢献することができ、さらには我が国の呼吸器・消化器外科の診療の推進、進化にもつながると考えられます。

【意義】

長崎県は日本の最西端に位置し、県内には離島やへき地も存在し、地域医療の充実などの観点から、このような稀でかつ重篤になりうる疾患についての調査研究は大変大きな意味があります。患者様へのケアがよりよいものになることはもちろん、日本全体の外科診療を発展させることにもつながります。

【方法】

長崎大学病院の診療録データから、年齢、性別、食道穿孔の原因となった病態、基礎疾患、手術の内容・術式、術前後の臨床検査所見、術前後画像所見、病理所見、ICU 滞在日数、術後在院日数、術後経過を調査します。

対象となる患者さん

長崎大学病院において、2014 年 1 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までに、長崎大学病院で食道穿孔の手術（呼吸器外科と消化器外科の合同手術）を受けられた患者さんが本研究の対象です。

研究に用いる情報	
●研究に用いる情報 下記の情報を診療録より収集します。 • 年齢 • 性別 • 食道穿孔の原因となった病態 • 基礎疾患 • 手術術式 • 術前後の臨床検査所見、画像所見、 • 病理所見 • 術後経過 本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。	
情報の利用開始予定日	
本研究は 2024 年 8 月 1 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。	
あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。 ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。 あらかじめご了承ください。	
研究実施期間	
研究機関長の許可日～2025 年 12 月 31 日	
研究実施体制	
研究責任者	所属：長崎大学病院 呼吸器外科 氏名 谷口 大輔 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095（819）7304
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

問い合わせ先**【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】**

長崎大学病院 呼吸器外科 谷口大輔

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話：095（819）7304 FAX 095（819）7306

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）